

和歌山県白浜町におけるイトマキヒトデ (アカヒトデ目, イトマキヒトデ科) 個体群回復の可能性

田名瀬英朋*・興田喜久男**・久保田 信**

Hidetomo TANASE, Kikuo OKITA and Shin KUBOTA : Provability of population recovery of the bat star, *Asterina pectinifera* (Valvatida, Asterinidae), in Shirahama, Wakayama, Japan

はじめに

日本国内におけるイトマキヒトデ *Asterina pectinifera* MÜLLER et TROSCHEL の地理的分布域と生息域は、北海道より九州にかけての潮間帯から浅海域の岩礁または砂底で、普通種として記録されている (小黑, 1995; 佐波・入村, 2002)。

和歌山県下においてもタイドプールや浅瀬などに多く、よく知られている種とされている (布施ほか, 1982; 西村ほか, 1966; 和歌山県立自然博物館, 1985)。西牟婁郡白浜町臨海の瀬戸臨海実験所周辺海域や田辺湾内の各所においても、干潮時の潮間帯や素潜りによって浅海域から容易に観察や採集が可能な種であった (大垣・田名瀬, 1984)。しかし、1996年前後にはSCUBAや素潜りによる潜水調査においても生息の確認が困難になった (水族館記録, 2002; 田名瀬, 未発表)。また、白浜町番所崎における干潮時の潮間帯での臨海実習ははじめ白浜町島島の磯浜や浅海での動物の観察・調査時でも、1992年以降、2007年7月の臨海実習まで一度も本種を確認することがなかった (久保田, 未発表)。こうした状況から筆者らは本種の生息状況に関心を持ってきたが、1996年以後、白浜町の潮間帯や浅海域から断続的ながら6個体の生息を確認したので報告する。

本稿をまとめるにあたり、標本の入手や生息情報の収集に多大な協力をいただいた大阪市立大学理学部生物学科の教員と学生の23名、瀬戸臨海実験所の太田 満・山本泰司の両技術専門職員の諸氏に深謝いたします。

採集・観察記録

1975年12月17日 田辺市鳥ノ巢
潮位 7 cm (23時18分), 岩場, 徒歩
で12個体以上を確認
1980年4月18日 白浜町田尻

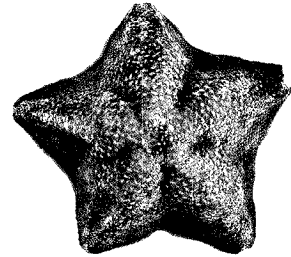


図1 2007年7月16日に白浜町番所崎で採集されたイトマキヒトデ (背面)

潮位 0 cm (14時4分), 岩場, 徒歩
で8個体以上を確認
1990年3月24日 白浜町番所崎
SCUBAによる潜水観察, 水深2 m,
25個体以上を確認
1996年8月29日 白浜町臨海北浜
素潜り, 水深2~3 m, 太田 満氏
2個体を採集
1999年4月19日 白浜町島島
潮位 0 cm (14時4分), 岩場, 徒歩
で1個体を採集, 幅長 (R): 35 mm
2006年7月11日 白浜町阪田
素潜り, 水深1 m, 1個体を採集
2007年7月16日 白浜町番所崎 (図1)
潮位 9 cm (13時9分), 岩場, 徒歩
で1個体を採集, 幅長 (R): 40 mm
2007年7月下旬 白浜町阪田
素潜り, 水深1 m, 1個体を採集, 幅
長 (R): 47 mm

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

観察記録中の潮位と時刻については、気象庁編集による該当年の潮位表の記録を使用した。

考 察

国内における本種の分布は広範囲で、容易に観察できることから特定海域内での分布状況について印刷公表された記録は少ない。白浜町については、畠島において1949年から1983年の間に実施されていた臨海実習における磯観察の資料から本種の生息を確認できるが、1967年から1979年の13年間は観察されていない（大垣・田名瀬, 1984）。しかし、その期間内でも白浜町内の他海域では観察・採集されており、継続的に生息していたことは確かである。1984年以降についても田辺湾内各所で本種を確認している（田名瀬, 未発表）。ところが、1996年頃から本種の生息確認が困難になり、田名瀬や久保田が担当して毎年実施している磯観察（白浜町番所崎・畠島）でも確認できなくなっていた。ところが、1996年に2個体、1999年に1個体、2006年に1個体、2007年に2個体の存在を確認することができた。これら6個体が白浜・田辺湾域で自然繁殖したものか、紀北域や大阪湾域において繁殖した浮遊期の幼生の一部が内海水の南下とともに回遊し、変態・着底したものかについては不明で

ある。現在、本種は白浜・田辺海域において継続的な生息が確認されていないため、今後の生息数や分布域の推移に注目したい。

引 用 文 献

- 布施慎一郎ほか. 1982: 御坊市名田海岸の岩礁生物5, 南紀生物, 24 (1), 58-63.
- 西村三郎ほか. 1966: 由良地区における海中景観のあらまし. *in* 和歌山県海中公園学術調査報告, 日本自然保護協会調査報告, (27), 35-40.
- 小黒千足. 1995: ヒトデ形亜門. 西村三郎編著. *in* 原色検索日本海岸動物図鑑, II, 513-529. 保育社, 大阪.
- 大垣俊一・田名瀬英朋. 1984: 畠島磯観察記録1949-1983. その2, 南紀生物, 26 (2), 105-111.
- 佐波征機・入村精一. 2002: ヒトデガイドブック, 135pp. TBSブリタニカ, 東京.
- 水族館記録. 2002: 水族館記録2001年 (収集・飼育・展示), 瀬戸臨海実験所年報, 15, 9-12.
- 和歌山県立自然博物館編. 1985: 和歌山県の自然 I 海と生物 (展示解説第3集), 147pp. 和歌山県立自然博物館, 海南.